学校番号	327

令和８年度　理科（普通科）

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	新編　化学基礎　　（数研出版）						
副教材等	化学基礎準拠サポートノート（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生活の中にかくれている化学を発見し、化学が日常生活に役立っていることを理解していきましょう。化学の面白さや自然現象の過程を知ることの楽しさを、実験や観察を体験しながら学習を深めていきましょう。理科という科目が「面白い」と思えるような思考を身につけていきましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
基本的な原理・法則を理解し、観察や実験を行う技術を高め、適切に解答を導くことができる。
【思考力、判断力、表現力等】
身近な出来事や課題に疑問をもって、もっと知りたいと感じ、それらに答えたいと疑問解決しようとする探究力を深める。
【学びに向かう力、人間性等】
仮説を立て、情報を収集し、課題、実験方法やまとめに至るまでの流れをまわりの生徒や先生と議論を重ね、様々な課題の解決につなげることができるようになる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	物質の性質や、その変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、事象を化学的に解釈したり、表現、処理したりする技能を身につける。	物質の構造や仕組みを理解し、論理的に考察し表現する力。事象について学習した内容と結び付け課題解決できる力。また、それを適切に表現する力。	課題や事象に対して化学的な理解を示し、学習内容を活用し粘り強く考え、判断しようとする態度。 問題解決の過程を振り返って考察を深め、仲間と共有し学習内容を定着させる態度。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	物質の構成	1.混合物と純物質 2.物質とその成分 3.物質の三態と熱運動	a:混合物と純物質を分類でき、分離方法を理解できている。元素、単体、化合物の違いを理解できている。分子の熱運動の様子をイメージできている。 b:学習した内容を関連付けて考察することができる。分子の熱運動の様子を説明できる。 c:ノートや課題ﾌﾟﾘﾝﾄに取り組み、自分の考えをまとめ、表現することができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート 課題ﾌﾟﾘﾝﾄ	提出ノート 課題ﾌﾟﾘﾝﾄ
	物質の構成粒子	1.原子とその構造 2.イオン 3.元素の周期表	a:原子内部の構造がイメージでき、電子配置を理解できる。周期律を理解するとともに、原子番号1から20番までを把握している。 b:　原子内部の構造を知り、イオン、周期律へと拡張し考えていくことができる。 c:　ノートや課題ﾌﾟﾘﾝﾄに取り組み、自分の考えをまとめ、表現することができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート 課題ﾌﾟﾘﾝﾄ	提出ノート 課題ﾌﾟﾘﾝﾄ
2学期	粒子の結合	1.イオン結合とイオンからなる物質 2.分子と共有結合 3.共有結合の結晶 4.金属結合と金属	a:イオン結合とイオン結晶や共有結合のしくみを理解している。他の結合について理解できている。 b:組成式や物質名のルールを用いて授業で学習した以外の物質の組成式、物質名がわかる。 c:物質の命名法や組成式について関心を持ち、考察することができる。物質の結合について関心を持ち、考察することができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート 課題ﾌﾟﾘﾝﾄ	提出ノート 課題ﾌﾟﾘﾝﾄ

	物質量と化学反応式	1.原子量･分子量･式量 2.物質量 3.溶液の濃度 4.化学反応式と物質量	a:分子量を求めることができる。物質量を用いた数の表し方について理解している。溶液の濃度の表し方を理解し、求めることができる。 b: 原子の質量についてイメージできている。モル質量の考え方をもとに、身の回りの物質量について考えることができる。 c:物質量の考え方をイメージできている。溶液の濃度について、物質量から求めることができるなど、学習内容を活用し、求めることができる。溶液の調製手順をまとめることができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート 課題ﾌﾟﾘﾝﾄ	提出ノート 課題ﾌﾟﾘﾝﾄ
3学期	酸と塩基の反応	1.酸･塩基 2.水の電離と水溶液のpH 3.中和反応と塩 4.中和滴定	a:酸･塩基がどのような物質かを理解し、分類できる。pH と水溶液の性質の関係について理解できている。中和反応のしくみと生じる物質について理解している。 中和反応を利用して、酸や塩基の水溶液の濃度を求めることができる。 b:酸･塩基の性質について電離式を用いて考察できる。 c:pH を求める発展問題でも基本の考えで求められることに関心を持ち、活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート 課題ﾌﾟﾘﾝﾄ	提出ノート 課題ﾌﾟﾘﾝﾄ
	酸化還元反応	1.酸化と還元 2.酸化剤と還元剤 3.金属の酸化還元反応 4.酸化還元反応の利用	a:電子に着目し、酸化還元を学び、酸化数も理解している。酸化剤･還元剤のはたらき方や量的関係を理解している。 b:金属のイオン化傾向を理解し、反応の起こりやすさの流れを考察することができる。 c:電池の仕組みをイオン化傾向の考え方を活用し考察しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート 課題ﾌﾟﾘﾝﾄ	提出ノート 課題ﾌﾟﾘﾝﾄ

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度